

2020年6月29日(月)
外国語活動Ⅰ 8:45-10:00

“現実感覚がなければ生きていけない。理想を持たなかったら、生きている資格がない。”
(レイモンド・チャンドラー『プレイバック』より)

○11章は基本的な「英文法」についての章です。英語科の皆さんには英文法という講義が必修科目となっていますし、英文法に関連する科目も多く提供されています。中高では英文法を明示的に指導する場面もありますので、英文法の知識を十分にもっていなければなりません。また、言葉は母語でも外国語でも同じですが、初めは正確さよりも流暢さが重視されます(正確でなくても伝え合うことが大切)。しかし、母語でもそうであるように、いつまでたっても間違いの多い表現であってははいけません。学習の段階が上がるにつれて文法的正確さを高めていく必要があります。

○この章に書かれていることは、小学生にこれらの文法を明示的に指導するという訳ではありません。これまでも学習してきたように、言語習得上の観点から大切なのはインプットです。大量のインプットを浴びることにより、児童は英語の表現を蓄えていき、そのなかから、必要な文のルールを自分なりに構築していきます。

○もし、そうだとしたら、教師はできるだけ正確な表現でインプットを与えていく必要があります。そのためには基本的な英文法の知識を持っておく必要があります。この章は英文法の基本的な考え方をコンパクトに示しています。基本的な考え方がわかれば後は自分なりに調べたり、辞書を引いたりしていけば良いのです。

○幸いなことに(?)本講義を受講しているみなさんは中高、大学と英語を学んできています。英文法の参考書も持っているはずですが、ぜひ、あいまいなところは文法書や辞書にあたったうえで授業づくりをしてください。

○私自身の事を話せば、英語を学んでいて、文法を嫌いになったことはありません。教師になってからも、本屋さんで英文法の分かりやすい本を探すのが趣味の一つでもありました。英語の辞書についてもそうです。新しい辞書が出るとつい買ってしまったりしていました。(今は電子辞書やネットの辞書が主流になりつつありますので、みなさんは、私のような感覚が理解できないと思います)新しい辞書を開くときのワクワク感は今でも忘れません。30代の頃には辞書の執筆にも加わりました。一つの単語の解説を書くのに日曜日がつぶれることもありました。

○個人が楽しみのために英文法を深く学ぶことは一向にかまいません。私もそうでした。しかし、指導者としての立場になった時、忘れてはいけないのは、なんのために英文法を学ぶのかということです。英文法はコミュニケーションを支えるものであり、それ自体が目的化してしまわないことが大切です。

○以下の引用はぜひ心にとめておいてください。

○文法は最初に重視すべき項目ではまったくない。学習者は、まずどのようにして意味を伝えるか、発話に参加するのかを学ぶ。そうすると学習者はコミュニケーションを経験することで、その結果として、言語の構造または機能に気がつく。(サビニョン, 2009)

○私たちはコミュニケーションをしたいという気持ちと、コミュニケーションの経験があって初めて、文法を習得することができる。この意味においては、コミュニケーション能力から文法能力へと進むという逆の考え方も成立する。(サビニョン, 2009)

○そして、最後に、文法も Learning by doing (使いながら学ぶ) ことです。授業づくりにおいて、スモールトークを考える時に、また、指導案をつくる時に、あるいは授業中に不確かかなところがあれば、辞書を調べたり、ALT に聞いたりしながら文法的な正確性を高めるようにしていけば良いと思います。そして、手元にやさしい文法書や辞書を置いておき、調べる苦勞を厭わないことが大切です。もちろん、自分で調べないと何も学べません。

○前置きが長くなりましたが、今回は以下の予定で講義を進めます。

①各グループでスモールトークをします。テーマは「高校時代の思い出」についてです。過去形の使い方に注意してくださいね(笑)

②先週、見るができなかったスモールトークの実践例(約3分)を視聴します。

③テキストをみながら英文法について意見交換します。

④先週も予告しましたが今回はフルバージョンで授業動画を見ます。自分が授業することを考えながら視聴してください。

6月22日のリフレクションです。

①今日の授業では、2回目のスモールトークをしました。学生同士で何を話せばよいのかわからなくて戸惑ったり、話が続かなかったりして少し難しかったです。小学校の先生になったら、事前にスモールトークで何を話すか決めて置いたり子ども達の興味のある話題を考えて置いたりするのも大切だなと感じました。最後に英語科の先輩がアドバイスしてくれた、子どもに使ってほしいワードを教師がまずたくさん使ってインプットし、子

ども達は真似するだけで意識しなくても話せるようになるというのがとてもいいなと思ったので、来週のスマールトークにも生かしてみたいです。(岸本)

②分かることと分からないことから意味を予測することで子どもの内側から「気づき」を生むことが期待できるというスマールトークの意義に気がきました。小学生の時に、先生の話をまねて意思疎通ができ、「気づき」があったことが楽しかったのだと思い出しました。単語のフラッシュカードや文法の確認をしてから、英語の表現をするイメージもありましたが、それだと決められた単語や表現を使うことを意識しすぎて、コミュニケーションをするという本来の目的よりも、考えすぎて話せないということが起こりそうだと感じました。簡単な表現でも意思表示ができること、児童が興味をもって自然なやり取りができることをイメージして小学生のモデルとなるためにスマールトークの練習をしたいと思います。(M)

③今回の授業初めのスマールトークでは、自分たちが英語でどういう風にいうのか知らない単語を、知っている簡単な単語に置き換え、そこからコミュニケーションを取ることができた。例えば、「お腹が鳴る」は「ハングリーリング」や「お米とパンどっちも同じぐらい」の同じぐらいを「フィフティーフィフティー」など、これが小学生が未習の単語を既習の単語を使用してコミュニケーションを取ることの例だなと実感した。授業の最後に四年次の方が仰っていたように、スマールトークを通して、まずは自分が児童のお手本になれるよう、例を出しながら分かりやすく伝えていく方法を学んでいきたい。(T)

④前回同様、small talk を試みて、まだ難しさは感じるけれど、決まった形 (I went ~や It ~ for ~ to ~) に合わせて短文で文章を作ることができたように思う。最後のアドバイスにあったように、子どもたちが理解しやすく真似できるような small talk が望ましいとあったので、この手法を使い、後は慣れることを目指していきたい。そのために、この授業の時間だけでなく、友達を誘ってオンラインでも英語でお話する時間を作りたいなと考えた。私は英語力があまりないからこそ、子どもたちと近い英語感覚を持っていると思うので、「それでもこんなふうに表現できるんだよ」と子どもたちへ伝えられそうだなとも考えた。しかし、緊張や次に話す内容に意識しすぎて、自分が話した言葉を忘れてしまうので、自分がどんな英文を話したかを振り返られるように、次回は録音してみたいと思った。(T)

⑤今回もスマールトークをやりましたが、前回よりも急に上達するわけもなく、今回も会話が弾まないやり取りをしたと感じました。会話が途切れれば、急に次の質問に変わったりと、一つの話から膨らんでいくことがありませんでした。私の中の理想は、一つの話から派生していき学習しているという感覚を忘れてしまうような会話にしたいと思

っています。そのためには、教師が流れるように英語を話していかなければいけないし、会話のスキルも必要だと思いました。

最後の先輩からのアドバイスはとても納得で、教師から話す手順を子どもたちに例として聞かせることによって、理屈よりもまずはやってみて、感覚をつかんでいくことにより外国語獲得が効率的になると私は思いました。決まったフレーズを何度も子どもたちに聞かせて耳に定着させ、アウトプットするだけでも定着しやすくなると感じました。

私自身、スモールトークが全然できていないので、毎回のスモールトークでは目標を立てて、少しずつでも上達していきたいと思いました。(S)

第 11 章

1. 品詞の区別

1.1 名詞

1.2 動詞

Walk

Take the dog for a walk

Can you walk the dog? 🖱️これはどういう意味？

1.3 形容詞

1.4 副詞

1.5 接続詞

1.6 前置詞

A pen on the desk 🖱️中学生がよくやる間違い the desk on a pen*

There is a pen on the desk.

There is a fly on the ceiling. 🖱️これはどういう意味？

I study math on Monday.

1.7 冠詞

昨日、海へ行った 🖱️英語で言うと？

I am eating a chicken. 🖱️これはどういう意味？

Tow coffees, please. 🖱️これは正しい英文？

I have a Toyota. 🖱️これは正しい英文？

2 いわゆる「基本5文型」と意味の関係

3 時制



I am loving it. 🗑️ これはどういう意味？

I am going to Tokyo next week. I will go to Tokyo next week. 🗑️ この文の違いは？




3.1 動詞の形態変化としての時制

3.2 現在形

3.3 過去形

Let's Watch
and Think

映像を見て、登場人物が夏休みにしたことなどを表に書こう。

名前	 Mark	 Emma	 Kosei
したこと			
感想			

Let's
Listen

登場人物が夏休みにどこに行ったのかを聞いて、線で結ぼう。

Let's Read
and Watch

夏休みの日記を読み、映像を見て、内容を確かめよう。また、その内容に合う絵を選ぼう。

My Summer Vacation

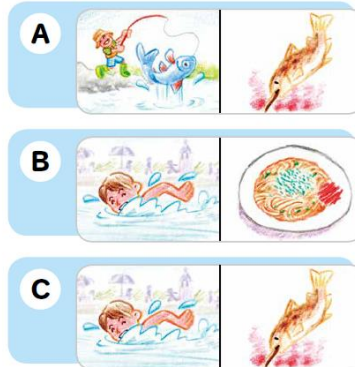
Date: August 12th

I went to the sea.

I enjoyed swimming.

I ate fresh fish.

It was fun.



4 助動詞の働き

4.1 助動詞とは

4.2 人間の行動に関する判断

4.3 状況に関する判断

4.4 助動詞の文法

5. 不定詞と動名詞

5.1 不定詞の3用法

5.2 動名詞と不定詞の共通点と相違点

コラム 4

1. 文字

2. 語彙

※訓令式とヘボン式について書いた私の文章を添付していますので読んでおいてください。